

— 真の更生を目指して —

前進する「オリーブの家」

4月4日に緊急理事会が、さらに、5月24日に総会が開催されました。2つの会議の共通テーマは、「今後の活動方針」でした。その結果を以下にご報告します。

1. 施設の規模を大きくするよりも、入室者一人ひとりと向き合う体制の確立を図る

前年度は、ホームページの立ち上げや、テレビ局の取材などを通して、私たちの活動を幅広く知って頂くことを重点目標として進んでまいりました。財政面では入室者を10人程度の規模とすることを目指していましたが、今年度は定員を6名に据え置き、運営体制の整備と自立支援プログラムの充実を図る事と致しました。さらに、支援の輪を広げていくために、『月刊オリーブ』の発行配布に取り組んで参ります。

公の支援金（委託費）は、4月が71万1663円、5月が73万5228円でした（全体支出の約70パーセント）。毎月30〜40万円程度の不足が発生しますが、この額は、皆様からのご支援により支えていただくことを願っています。

2. 地域に根ざした活動のあり方を確立する

この一年間は、地域住民にオリーブの家の働きがなかなか理解されず、苦しい時期を過ごしました。近隣への配慮から、自費で街灯をつけたり、周辺の清掃をしたりしながら、少しずつではありますが、近隣から認知されつつあります。先日は、町内一斉清掃にも参加し、とても歓迎を受けました。今では、当施設（コーポ池田）のオーナーは、周辺清掃と管理を管理会社に任せず、私たちに任せてくださっています。実は、この清掃の中心となっていた入室者が、近日中にオリーブの家を退室することになりました。彼は以前から、施設の近くに住み、オリーブの家を支えたいという強い思いを持っていました。それを聞いたオーナーは、保証人もいない彼に、保証会社も通さず、なんと部屋を提供してくださいました。退出予定の彼は、正会員になってオリーブの家を支えたいと思っている一人です。

3. 霊的な導きも含め、生活力の向上や自立に向けた一連のカリキュラム作りに取り組む

物質的な面での充実と並行して、精神面での援助プログラムを確立させる必要があります。そのためには、充実したスタッフ陣が必要となります。現在与えられている現場スタッフの紹介をいたします。①まずは私と同じ立場にたつて、入室者と直接関わってくれる職員に松岡勇児がいます。彼は、生まれ持った優しさに忍耐力も加わり、入室者の信頼を多く得ています。②オリーブの家が存在する証し人として、坂尻隆次を紹介します。彼は短期間ではありますがオリーブの家の入室経験を持った男性です。その彼はオリーブの家の正会員であり料理長として入室者への健康管理、配慮、気配り等々素晴らしい人材です。③最後に私の妻であり良きパートナーであります順子を紹介いたします。彼女は経理面、食料の買い出し、備品の調達等々オリーブの家では裏方に徹してくれ私のサポートをしてきています。

以上が、理事長となった私を支えて下さる強力なメンバー達です。オリーブの家は様々な形で支援者の皆様を支えられ立っています。今後ともどうぞよろしく願っています。



オリーブの家
理事長

青木康正

入室者の声

●オリーブの家にお世話になって
いる頃、いつも考えていることがあり
ました。早くここを出て、自分の部屋
を借り、酒もタバコも女も賭博も、と
にかく自由になりたい。ですが、オ
リーブの家は刑務所ではありません。
出ていきたければいつでも出ていけ
ます。何故出て行かないのか？それは
スタッフの方々の私たちへのコミュ
ニケーションが温かかったこと、理
事長の青木さんの自らの体験と経験
から、過ちを犯し挫折した自分たち
に、とことん向き合ってくれたことだ
と感ずいます。そして、毎日の交換日記で
いつも悩みを相談したり、将来の事を
聞いて頂いたりしておりました。

今は自立し、独り暮らしをしてお
りますが、悩みや心配事は山ほど有りま
すし、出てきます。自分たちのような
過ちを犯した人間は、職場の同僚に相
談出来ない事も沢山あります。仕事で
のストレス、これからの不安、弁償な
どのお金のこと等々。オリーブの家に
お世話になった方々のほとんどが家
族・親戚がありません。二度と同じ過
ちを犯さないよう昔の友人に連絡し
ないようにと指導をされておりまし
た。オリーブの家は、熊本で新しく生

まれ変わった自分の生家であり、実家
だと思っております。そして、青木さ
んを始めとするスタッフの方々は、父
であり母であると思います。オリーブ
の家から自立していく方々は兄弟だ
と思います。自立しても、オリーブの
家のスタッフの方々が卒業した方々
との絆を大切に、これから先も悩み
を聞いてもらったり、聞いてあげたり
する関係は大切じゃないかと思いま
す。O B 会的なグループを作り、生活
保護で卒業した高齢者の方々への連
絡や、時には話し相手になったり、卒
業した方々の悩みを聞いてあげたり
して、そのような活動でオリーブの家
を支えることが、感謝の気持を表すこ
とだと思っております。(5/18 O B
のYYさん)

「オリーブの家の正会員になってオ
リーブの家を支えたい！」と、積極的に
関わってくれる一人です。神様が一人ひ
とりに働かれていますと実感できる事例
です

●少年院を出て三か月が経ち、仕
事・学校のレポート・聖書の学びを両
立させることができていくことに感
謝です。全て主から与えられたもので
自分を心からサポートしてくださる
青木さん夫妻や応援してくださる
方々がいるからこそ、前を向いて毎日
を送ることが出来ています。きつと、
毎日自分たちのために祈ってください

り、語りかけてくださる青木さんがい
なければ寂しさゆえに過去の生き方
に逆戻りしていたと思います。毎日主
に祈っていなければ心の土台を見失
い、気付けぬ内に的外れな生き方に足
を踏み入れていたかもしれませぬ。

時間が経つにつれて考え方も確立
し、聖化され、全てが整い、気持ちに
平安を感じることが出来ます。…今、
自分の人生を主に捧げたいという想
いから、過去の自分のように暗い道を
歩む人を主の光へと導き、一人でも多
くの人に平安を感じてもらいたいと
いう夢があります。そのため材料づ
くりの時期が「今」です。

非行少年を真に更生させ、導くこと
が自分に与えられた使命だと感じま
す。それが、自分の生きる目的です。
主が居られるので必ず叶うことを確
信しています。つらく苦しくなったら
祈り、悩んだときも祈って、楽しい時
も祈って、感謝したときも祈って、毎
日主と共に人生を歩み、人の役に立ち
たいです。(5/18 TA君)

十八歳の少年の思いをどのように受
け止めるかが、私たちオリーブの家の課
題でした。私自身の課題でもあります。
しかし、そんな危惧を吹き飛ばすかのよ
うに、彼は自分自身をしっかりと見つめ
歩んでくれています。彼の希望は、オリ
ーブの家の希望でもあり、いや、全国の
支援して下さる方々の希望でもあると
信じます。ハレルヤ！

皆様からの温かいご支援に感謝いたします。

銀行振込

肥後銀行 (銀行コード: 0182)
京町支店 (支店コード: 156)
口座番号: (普通) 1574408
口座名義: NPO 法人 オリーブの家
トクヒ) オリーブノイエ

郵便振替

銀行名: ゆうちょ銀行 (金融機関コード: 9900)
口座番号: 17180-5444801
口座名称 (漢字): NPO 法人オリーブの家
口座名称 (カナ): トクヒ) オリーブノイエ
(他銀行からお振込の場合は)
店名: 七一八 (読み: ナナイチハチ)
店番: 718
口座番号: (普通) 0544480

会計報告 (2015年)

		4月	5月
収入	先月より繰越	2,054,740円	1,997,485円
	公的援助	711,663円	735,228円
	献金	177,000円	237,000円
	その他	73,000円	47,000円
	(収入合計)	961,663円	1,019,228円
支出	家賃	220,000円	220,000円
	光熱費	55,207円	62,011円
	食費	191,893円	151,870円
	人件費	352,758円	351,076円
	その他	199,060円	300,139円
	(支出合計)	1,018,918円	1,085,096円
当月収支		-57,255円	-65,868円
翌月繰越金		1,997,485円	1,931,617円

